

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691500054
法人名	医療法人 みゆき会
事業所名	グループホーム ひおきの里
所在地	鹿児島県日置市日吉町日置407番地1 (電話) 099-246-8611
自己評価作成日	平成27年10月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年10月27日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、住み慣れた地域の「もう一つの家」として、入居者様と職員が共に支え合いながら暮らしています。散歩道もきれいに整備され、季節の花を眺め、お日様の光をいっぱい浴びながらの散歩は心安らぐひと時です。毎月の壁面飾り作りや、季節の食材を使った料理やおやつ作りでも季節を感じて頂けるようです。

今持っておられる力を少しでも長く維持して頂けるよう、毎日の活動にも力を入れています。職員手作りのレクリエーションの道具や脳トレゲームに熱心に取り組まれる姿を多く見るようになりました。また、地域の方々がボランティアで踊りや大正琴など披露して下さったり、地域の行事に参加させて頂いたり、ご家族や地域の方々に支えられ楽しい日々を過ごされています。近所の保育園の園児を施設の行事に招いたり、夏祭りに招待して頂いたり、園児の皆さんとの交流も楽しみです。

7月には、たくさんのご家族に参加して頂き、民家をお借りしてカフェを開きました。入居者様と作ったカップケーキやシソジュース、入居者様と作ったコースターを使い、おもてなしすることが出来ました。

歳を重ねるごとに少しずつ認知機能や身体機能の低下は見られますが、医療との連携を図りながら一日一日を大切に、笑顔で安心して過ごして頂けるよう取り組んでいます。施設理念の、「住み慣れた環境の中で、共に寄り添い共に暮らしながら、お一人お一人の人生を大切に生きるお手伝いをします」に基づき、今後も職員一同力を合わせ取り組んでいきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は母体医療法人との24時間医療連携体制が整っている。
- ・町内会に加入し、法人全体で地域の係りや行事・清掃作業に参加している。保育園児との交流やボランティアの日舞・フラダンス・お茶飲み等を楽しんでいる。地域からの相談にも応じている。近所の方から、野菜の差し入れもあり、日頃から地域との交流を行っている。
- ・「地域に出て行こう」をモットーに、日常的に園庭の散歩や行きたい所・買い物にも出かけている。自宅に行ったり、家族と外食や物産館に出かけている。特殊車両で車椅子の利用者も気軽に地域の行事等に出かけている。
- ・年2回消防署の指導のもと地域住民の参加を得て防災訓練を実施している。災害時の水や食品などの備蓄も準備されている。緊急時の緊急連絡装置や防災設備もあり定期的に点検を行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	各ユニット・事務所に理念方針を掲げ、朝礼で声を合わせて読み上げを行い、常に理念を念頭に置きケアしている。	地域密着型の理念を、玄関や事務所に掲げ、ネームプレートにも提示している。申し送りの後に、理念を唱和している。スローガンと共に全職員が共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の会合や清掃作業・行事に参加し、施設の行事に招待したりボランティアの受け入れを行い、地域との交流が持てるよう取り組んでいる。	町内会に加入し法人全体で地域の係りや行事・清掃作業に参加している。保育園児との交流やボランティアの日舞やフラダンス・お茶飲み等を楽しんでいる。地域からの相談にも応じている。近所の方から、野菜の差し入れもあり、日頃から地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員のほとんどが認知症サポーターとして、職場以外でも認知症の方々の支援が出来るよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回、地域の方々や民生委員・行政・ご家族に参加して頂き開催。運営状況や活動報告を行っている。活動に対する助言も頂ける貴重な場になっている。</p>	<p>会議は定期的に行い、利用者の状況や活動・外部評価の報告等を行い、参加者から避難訓練や地域の清掃作業・台風時の諸問題等の提起があり、意見やアドバイスをサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や行事への参加も頂き、事業所の活動を伝える機会になっている。困難事例を相談し、アドバイスを頂いている。</p>	<p>市の担当者へは申請書類提出時や電話などで、事業所の状況や課題などを相談したり、毎月「たより」を届けたり、事業所連絡協議会の時等に情報交換をしている。運営推進会議等で実情や取組を伝え、協力関係を築いている。行政主催の研修も受講している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>研修や勉強会を通して学ぶ機会を設け、事務所に身体拘束の禁止規定を掲示し、職員で読み上げを行い身体拘束0に継続して取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を毎月実施して研修や勉強会などを通じ身体拘束廃止に向け取り組んでいる。接遇委員会でも言葉の拘束や名前の呼び方等、自己チェックシートを活用している。身体拘束禁止規定を掲示して、職員全体で共有し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は昼間は解放し、外に出ていく利用者には職員がさりげなく歩きたいところまで一緒に行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修や勉強会を通して学ぶ機会を設け、事務所に高齢者虐待防止法の対象となる行為を掲示し、職員で読み上げを行い意識付けるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修や勉強会に参加し学ぶ機会を持っている。認知症の方々が不利益を被る事のないよう今後も継続し取り組んでいく。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書・契約書を読み上げながらわかりやすく説明し、理解して頂けるようにしている。また、改定の際には説明後同意書を頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見箱を玄関に設置し、自由に意見や要望を記入して頂けるようにしている。また、管理者直通の電話で、いつでも相談して頂けるようにしている。職員が受けた意見や要望は、管理者へ報告し、速やかに対応できるよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者とは日常生活のなかで思いを聞いている。家族からは家族会や日頃の会話から、意見や要望を聴いている。ネームプレートについての要望があり、速やかに運営に反映させている。家族から管理者へ直接、電話でも気軽に相談できるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>個人面談・アンケートなどでそれぞれの意見や提案を聞く機会を設け、意欲を持って働けるよう取り組んでいる。</p>	<p>管理者に職員は、気軽に意見や希望など話せる雰囲気であり、何でも言いやすい良好な関係にある。職員個人面談が年2回あり、アンケートも実施して意見や提案を聞いている。食事会でも気軽に話ができる雰囲気を作っている。必要と思われることはミーティングで話し合い運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の自己評価や面談などで、個人の年間目標に対する取組や要望を聞く機会を設け、意欲的に働けるよう取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への参加は奨励しており、研修参加後は報告書と資料を回覧したり、事業所内で伝達講習を行い、職員全員で知識の共有が出来るよう取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業所連絡協議会やケアマネ協議会、研修など同業者が集まる機会に参加し交流を持っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院先や自宅に訪問し、本人の要望や心配事を伺い、安心して入居できるよう支援している。また、入居後の環境の変化による不安や気分の落ち込みにも配慮し、細目に声掛けし安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入院先や自宅に訪問し、家族の要望や心配事を伺い、安心して入居できるよう支援している。また、面会時に入居後の様子を伝えたり、家族の要望を伺う機会を持ち、家族と入居者様の良好な関係が継続できるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のできる事・できない事を把握し、必要な支援を検討しアセスメントを基にケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な家事を一緒に行い、役割を持って生き生きと生活できるよう支援している。また、感謝の気持ちを伝え、次の意欲につなげられるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>自宅の様子を気にされている入居者様が多いため、ご家族と連携を図り、体調を見ながら短時間でも自宅へ帰り家族で過ごす時間が持てるよう支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>買い物や散髪など、本人の希望される所に行く事が出来るよう支援している。馴染みの方々とおしゃべりすることで、入居者様も喜んでおられる。</p>	<p>本人のこれまでの生活歴を把握して、馴染みの関係性を継続できるように支援している。友人や知人の面会がある。行き慣れた美容院や店に職員が送迎したり、家族の協力で希望の場所へ出かけている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>様々な状態の入居者様がおられるため人間関係も複雑だが、性格や状態を職員が把握し、良好な関係が築けるよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退去後も、本人・家族の相談や支援に努めている。また、亡くなられた後の、家族への精神的なサポートも心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴や本人との会話の中で、希望の暮らしを伺い、本人の思いを大切にケアしている。時に家族の意向が異なる場合もあるが本人の思いを説明し、家族にも理解して頂けるよう取り組んでいる。	入居時に利用者や家族から希望や情報などを聞いている。日常的に細かく様子を観察しながら、日々の思いや意向の把握をしている。家族の面会時に、話しかけて日常のことを報告し、思いを聞いている。困難な方は家族からや職員で話し合い本人中心の支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族への聞き取りや、担当ケアマネからの情報収集を行い、職員間で情報を共有出来るよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で個別ケアについて話し合う機会を定期的に持ち、情報の共有を行い、一人一人のペースでその人らしく生活できるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やモニタリングを行い、意見交換や情報の共有を行っている。日常の会話の中でさりげなく本人の思いを聴き、望まれる生活に少しでも近付けるよう取り組んでいる。	本人や家族・関係者の意見を取り入れ、サービス担当者会議を開き介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施している。状況に変化があった時は、その都度見直し、現状に即した計画を作成している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについて、職員の気づきなど個別記録に残している。誰が見てもわかりやすい記録を心掛けている。また、職員間の連絡ノートで、情報の共有が出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状態や要望に応じて柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を文書している地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、近所の方々や民生委員さんの面会など交流が続いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療・体調不良時の往診、希望時の専門病院の受診支援を行っている。入居者様の体調の変化については、ご家族に細目に連絡するようにしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。歯科や眼科・外科などの専門医を含めて本人が望んだ医療機関で受診している。家族がいけない場合は職員が同行支援して、受診の結果は電話で報告している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>バイタル測定時の異常だけでなく、普段と何かが違うという時にも看護師に連絡するようにしている。入居様様が受診を希望されている時には、速やかに対応できるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、介護連絡表や口頭での情報提供を行い、病院との連携が図れるよう支援している。入院中も情報交換を行い、本人・家族が安心して治療できるよう支援している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時や定期的に今後のケアや緊急時の対応、終末期についてなど話し合う機会を持ち同意書を頂いている。本人や家族の気持ちに変化があった時には、変更できる事も説明している。</p>	<p>重度化や終末期に向けた指針を入居時に家族に説明している。状況の変化に伴い家族と何度も話し合いながら、その時の状況判断を共有している。希望があれば看取りも可能であり、事例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応についてはマニュアルに沿って対応できるようにしている。また、勉強会を開催し慌てずに対応できるよう取り組んでいる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の防災訓練を実施。家族や地域の方々、入居者様にも参加して頂き、いざという時に安全に避難できるよう取り組んでいる。</p>	<p>年2回消防署の指導のもと地域住民の参加を得て防災訓練を実施している。災害時の水や食品などの備蓄も準備されている。緊急時の緊急連絡装置や防災設備もあり定期的に点検を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、敬意を持って接するよう心掛けている。プライバシーへの配慮も気を付けている。	馴れ合いにならないように、特に言葉かけなどは十分注意している。排泄時のさりげない声かけや入浴時の羞恥心への配慮等、誇りやプライバシーを損ねない対応で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを日常の生活の中でさりげなく伺い、自分で選択して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごして頂けるよう支援している。生活のリズムを整えながら、寝たきりにならないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好きな服を着たり、お化粧品をしたり、本人の望まれることが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事が出来るような環境作り、嗜好や嚥下の状態に合わせた食事の提供を行っている。おやつを一緒に作る機会も設け、入居者様・職員と一緒に楽しんでいる。	給食委員会で個々の嗜好や嚥下の状態を把握して献立を作成している。職員と一諸に個々の力量に応じて買い物に行ったり、おやつ作りや玉葱の皮むき等の支援をしている。食事が美味しく食べられるように旬の野菜や食材の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会が中心になり、栄養バランスのとれた献立をたて食事を提供している。食事や水分量は個人記録に記録し、健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方に対しては声掛け・確認を行い、介助が必要な方には、その方に適した方法で口腔ケアを実施。必要時は、歯科受診の支援も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様一人一人に適した排泄ケアを行っている。その方の様子に配慮し、さりげない声掛けでトイレ誘導を行っている。個別の排泄ケアについても職員間で話し合い、情報を共有している。	排泄記録の把握と本人のトイレに行きたいサインを見逃さないように排泄リズムを把握して、さりげなく声かけするようにしている。自立に向けた取組を全職員で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分をしっかり摂り、身体を動かす機会を持つように取り組んでいる。排泄の記録を基に、便秘傾向にある方には個別で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	出来るだけ本人の希望に合わせてよう取り組んでいる。入浴を嫌がられる方に関しては原因を考え、気持ちよく入浴して頂けるよう取り組んでいる。	入浴は週3回を基本にしているが、排泄の失敗の時や希望があればその都度、対応している。好みの入浴剤やシャンプーを使用し、コミュニケーションを積極的に行っている。医療機関受診の前に対応する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの習慣を大切に、それぞれの希望に添い支援している。照明の明るさや室温にも配慮し、ゆっくり安心して休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師・薬剤師と連携し服薬支援を行っている。誤薬のないよう名前と日付を読み上げ確認し、職員2名で確認している。薬の変更がある場合は、体調の変化に気を付け、変化は速やかに医師・看護師に報告している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事を一緒に行い感謝の気持ちを伝え、人の役に立つことの喜びを感じて頂けるよう支援している。季節の行事や外出で、気分転換や楽しみが持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ本人の希望に合わせてよう取り組んでいる。また、ご家族にも協力して頂き、外出を楽しめるよう支援している。	「地域に出て行こう」が、モットーで、家族にもアピールしている。日常的に園庭の散歩や行きたい所・買い物にも出かけている。自宅に行ったり、家族と外食や物産館に出かけている。特殊車両で車椅子の利用者も地域の行事等に気軽に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを金庫で預かり、必要時は自由に使えるよう支援している。希望される時に残金や出納帳の確認を行い、安心して生活できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時はいつでも電話できるよう支援している。携帯電話を持参されている方には、操作の支援を行い、ゆっくり会話を楽しめるよう対応している。郵便のやり取りも支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃を行い、清潔な環境を提供している。季節の花を飾ったり、入居者様と一緒に壁面飾りを毎月作り、季節を感じて頂けるよう取り組んでいる。入居者様が安心して快適に生活できるような環境を整えている。	共用空間は天井が高く広いスペースで、柔らかい照明が心地よい。温度や湿度が適度に調整されている。畳の台やソファが置かれて、利用者の休憩場所になっている。歩行訓練器具やマッサージ機も置かれ気軽に使えるようになっている。手作りの作品を飾り、季節を楽しんでいる。ユニット間を自由に行き来できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、気に合う方々がゆっくりおしゃべりできるよう支援している。一人でゆっくり雑誌を読んだり、外を眺める事が出来るよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際は、使い慣れた家具を持ってきて頂き、自分らしい部屋作りを本人・家族と相談しながら行っている。家族の写真や行事等の写真やカードを飾り、その人らしい空間作りに取り組んでいる。	居室はベッドやトイレ・洗面台が設置され、機能的である。窓からは遠方の山々が見渡せる。馴染みの布団や家具・家族写真・手作りの作品等を持ち込んで、居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるような環境を整え、わかりやすい案内や目印をつけ、自分で出来る事をして頂けるよう支援している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない